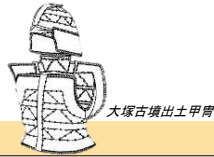


(仮称) 郷土資料館構想 【概要版】

令和3年(2021年)2月
豊中市教育委員会



本構想策定の経緯

【保管の課題】古くから交通の要衝に立地する豊中市には数多くの遺跡や指定文化財である建造物、街道などが残されています。そのため、市では埋蔵文化財(土器・石器・木器など)約13,000箱、歴史資料(古文書・絵図など)約9,000点、民俗資料(農具、生活資料など)約7,000点をはじめ、歴史・文化財に関する豊富な資料・情報を保管していますが、市内各所に分散保管していて、必ずしも適切な保管環境とは言えず、また十分な公開・活用ができていない状況です。

【施設の課題】市ではこれまでに「豊中市における文化振興の基本構想」昭和59年(1984年)、「文化総合施設基本構想・基本計画」平成10年(1998年)、「(仮称)豊中市文化芸術センター基本構想・基本計画」平成16・17年(2004・2005年)と3次にわたって、保管・調査研究・公開・活用のため施設の構想を策定してきましたが、いずれも実現には至っていません。

これらの課題解決を図り、これまでに蓄積された資料・情報を集中して適切に取り扱うため、「豊中市公共施設等総合管理計画」平成29年(2017年)を踏まえ、既存施設の有効利用を含めて検討し、貴重な歴史・文化財の資料を保管、整理・調査・研究、展示公開する施設としての(仮称)郷土資料館を整備するため、本構想を策定するものです。



(仮称) 郷土資料館の概要

- 【立地】 ●既存施設の有効利用を想定し、施設再編の進む市域南部で移転が予定されている庄内少年文化館等を候補として検討します。
●公共交通機関を利用して容易に来館できるエリアに設置します。
- 【規模】 ●現状の市内各所の作業・保管スペースの状況から、約2,900㎡を想定しています。
- 【機能】 ●歴史・文化財に関するあらゆる資料の調査や収集・保存・管理を適切に行います。
●調査・収集した資料を整理・研究し、その価値を明らかにしていく過程も公開します。
●豊富な資料を常設・企画展示、講座やホームページなどを通じ成果を公開・発信します。
●展示室、講座室等を用い、市民、児童・生徒にとってわかりやすい事業を行います。
- 【整備】 ●市域南部で施設再編の進む令和4年度(2022年度)中の整備をめざします。

(仮称) 郷土資料館の基本方針

- まとめる 市内の歴史・文化財をまとめて調査研究、タイムリーな成果の公開・発信
- まなぶ 誰もがわがまち豊中の歴史・文化財に親しみ、楽しみ、学べる場の提供
- つなぐ 未来を創造する資源としての歴史・文化財をみんなで次世代の子どもたちへ

(仮称) 郷土資料館における事業展開イメージ▼



※市域南部を中心にしたコンテンツ例